

令和2年度大野市スポーツ推進計画策定委員会（第1回会議録）

- 日時 令和2年9月24日（木）午後7時～8時50分
- 会場 エキサイト広場総合体育施設 会議室
- 出席者 山田委員（福井大学）、吉田委員（中学校体育連盟）
 帰山委員（スポーツ協会）、澤田委員（スポーツ推進委員）
 坂下委員（身体障害者連合会）、朝日委員（福祉施設連絡協議会）
 三嶋委員（公募）、小林委員（公募）
 事務局 清水局長、横井生涯学習課長、多田スポーツ振興室長
 小松企画主査、嶋田企画主査

- 議事録

進行 横井課長

1. 委嘱状交付

2. 教育委員会事務局長あいさつ

ご多忙中、ご出席いただき感謝申し上げます。本市のスポーツ推進計画は、平成24年の策定から約8年が経過している。この間、計画に基づき競技力の向上やスポーツを通じた健康の維持、また人との交流などを進めてきた。しかしながら、人口減少・少子高齢化が進み、青少年のスポーツにおいてはスポーツ少年団、学校部活動の生徒数減少といった問題が出てきている。成人スポーツにおいてもスポーツ大会の参加者数の減少・高齢化といった問題がある。一方で、一昨年度に福井元気国体・元気大会が開催され、来年度には東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されている。これを契機にスポーツを通じた交流人口の増加や健康の増進を図っていきたいと考えている。県も3月にスポーツ推進計画を改定したところである。委員におかれては、約1年半の長い任期となるが、令和3年度中の改定に向けてご協力いただきたい。

3. 正副委員長の選出

【事務局】大野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱の第4条1項及び2項により、委員の互選で選出したい。選出方法をお諮りしたい。

【朝日委員】事務局一任ではどうか。

⇒異議無し

【事務局】事務局の案としては、山田委員に委員長を、帰山委員に副委員長をお願いし

たいがいかがか。

⇒異議なし

【山田委員長】若輩者であるが、委員の皆様のご協力をいただきながら議事を進めたい。

4. 議事

進行 山田委員長

(1) 大野市スポーツ推進計画について【資料 No.1～6】

⇒事務局から資料に基づき説明。

【朝日委員】成人の週1回以上のスポーツ実施率の実績は把握しているか。

【事務局】5年毎の健康おおの21の改定時に調査している。平成27年度が41.1%。平成22年度が34.2%。平成17年度が32.5%となっている。50%には届いていないが、実施率は上昇している。今回、計画策定にあたりアンケートを実施し令和2年度の実施率を把握したい。

【帰山副委員長】今後の策定委員会のスケジュールはどのようになっているか。

【事務局】後ほど資料 No.9 で今後のスケジュールをご説明する。本日は、計画の参考とするアンケートの内容について、ご協議いただきたい。

(2) アンケート調査の対象・内容について【資料 No.7】

⇒事務局から資料に基づき説明。

【山田委員長】20歳以上の市民とは別にスポーツ団体向けにアンケートを行うのか。

【事務局】スポーツ団体に向けて、現状・課題・要望を問うアンケートをする。現状を把握する上で、どういったことを聞くと良いかご意見をいただきたい。

【山田委員長】委員の皆さんのそれぞれの所属においてのご意見があればお願いしたい。

【小林委員】アンケートの集計は、年代別での集計になるのか。

【事務局】市民向けアンケートは、年代別集計が可能。団体等は、年代別集計はできない。

【朝日委員】団体向けアンケートは記述式となるのか、選択式になるのか。

【事務局】選択式と記述式を合わせたものとなる。

【朝日委員】「障害となっていることは何か」という文言があるが、「支障となること」という表現も使っている。障害者関係の仕事をしている立場からは「支障」という単語を使っていたきたい。

【帰山副委員長】個人アンケートと団体アンケートの回答者が重複することもあるの

ではないか。

【事務局】個人と団体で立場を変えてお答えいただきたいと考えている。

【澤田委員】団体・学校向けアンケートは、1団体につき1名が回答するのか。

【事務局】団体の代表者に回答いただきたいと考えている。市民向けアンケートは、健康おおの21の計画に係るアンケートと一緒に実施したい。地区別・年代別と男女別も考慮して対象を抽出したい。

【山田委員長】調査対象の2,000人の基準は何か。

【事務局】健康おおの21は、以前から改定時に2,000人を対象にアンケートを実施しており、それに合わせた形である。学校でのスポーツ活動と障害者のスポーツへの参画に関して、もっと掘り下げたい。中体連や福祉関係のご意見もお聞きしたい。

【吉田委員】難しい質問である。課題は山ほど出てくると思う。団体ごとに回答するというと、回答者によって考え方が色々ある。自分たちが指導していく上で、生涯スポーツ的なことも考えている。入学する段階で部活に入るが、スポ少でやっていなかったからやらない、やってはいけない。小学校で野球をしていたから、中学校でサッカーはできない。やればいいのにそういう考え方がある。小学校でやってしたが、中学校ではやりたくない。ある段階でスポーツが嫌いになる子がいる。繋がっていかないというケースもある。そういうことが解消できるアイデアがあると良い。子どもが少なく、活動を続けることが困難な場合もある。例えば、スキーは大変な状態である。学校単位ではとても続けていけない。スキー連盟と連携する必要がある。大野全体で考えて、他団体とスムーズに繋がれると良い。学校も担当者が次々変わるので引き継いで一貫して継続していくのも難しい。

【山田委員長】アンケートは、自由記述が少ない方が答えやすいか。

【吉田委員】答えやすい。

【山田委員長】アンケートの設問数は増えるが、内容を細かくし、「はい・いいえ」で答えられるくらい簡潔にするというやり方もある。集計・取りまとめができないのでは。

【吉田委員】回答者には、それぞれ個人の考え方や状況の違いがある。競技力向上を重視する人もいる。

【山田委員長】アンケートのイメージとしては、資料No.8程度のボリュームを考えているのか。

【事務局】市民向けアンケートよりは、少ないボリュームとなるかもしれないが、なるべく選択式の設問を多くし、統計が取れるようにしたい。

【山田委員長】委員に求めているのは、項目の具体例か。

【事務局】掘り下げるべき具体的な案があれば教えていただきたい。アンケートは、課題を抽出し、計画に反映し、取り組みに繋がりたいという意図で行う。

【山田委員長】現在のスポーツ推進計画をある程度踏襲したほうが良いのか。

【事務局】現計画にこだわらずに率直な意見をいただきたい。

【三嶋委員】障害者・高齢者にとって「スポーツ」は敷居が高いと感じている。現状を見ていると、まず「外に出ることができますか。」から始まり、「人と会話がありますか。」というレベルである。孤立している人が多い。自分のところに運動しに来る方は、実は人と会話しに来ている。高齢者・障害者にはそういうレベルの人が多。そういう方にも聞いてあげると良いのではないか。

【山田委員長】スポーツという枠ではなく、ウォークラリーなどのように楽に参加でき、そこで社会参加ができる機会というようなことか。

【三嶋委員】スポーツというより、社会との交流というイメージである。運動は、障害者・高齢者にはハードルが高く毛嫌いされる。本当に運動が必要な層にはそういう人たちもいる。

【山田委員長】「参加に必要な支援」という項目があるが、家から出る切っ掛けをつくる必要があるということか。

【事務局】福祉施設へのアンケートで問う想定をしていた。

【三嶋委員】施設に行けている人は、まだ交流がある人である。高齢者や年齢に関係なく人と接するのが苦手な人が孤立している。そういう人にアンケートに答えてもらうのは難しいとは思うが。

【事務局】アンケート前の委員会は、これが最後となる。今日の意見を参考にアンケートを作成したい。

【山田委員長】できるだけ多くのキーワードをいただければと思う。

【吉田委員】中体連の大会を開催する際、暑さ対策・コロナ対策ができる広くて使いやすい会場が欲しい。奥越レベルでは、エキサイト広場とジオアリーナで競技ごとにローテーションして使っている。専用野球場なども欲しいと感じている。

(3) 市民アンケートについて【資料 No.8】

⇒事務局から資料に基づき説明。

【山田委員長】県のアンケートをベースに作成したのか。

【事務局】県のアンケートも参考にしている。今後の施策の参考となるような設問を作成した。

【山田委員長】問7に「地域のスポーツ大会に参加したことがあるか。」という問いに主なスポーツ大会を6つあげてあるが、どの大会に参加したかは問わないのか。

【事務局】問わない。

【山田委員長】問8の名水マラソンについて、別に設問があるのは特に重要視しているからか。

【事務局】参考意見をいただきたいという意図である。

【山田委員長】名水マラソンは、市外の方も多く参加しているイメージである。どうすれば、地元のイベントとして市民の満足度が高くなるのかという項目があっても面白い。

【澤田委員】問7について、各地区体に対する意見も聞いてみては。

【吉田委員】「地域」という言葉が分かりづらい。「市」とすべきでは。

【帰山副委員長】「地区」という言葉も使っている。「地区」、「地域」、「市」を分かりやすくした方が良い。

【朝日委員】他の個所でも「地区」、「地域」、「市」が混在する。整理をした方が良い。

【事務局】設問は多くなるが、「地区」、「市」それぞれで問いを作らせていただく。

【三嶋委員】問12の「施設への要望」は、増設などの要望を書いても良いのか。ダンスを教えているが、市内に鏡張りの施設があればよいと思っている。

【小林委員】問6の「スポーツ教室で体験してみたいスポーツ」で「ある」に丸を付ける人は、意識の高い人ではないか。コミュニティーサークルのようなものに参加したい人もいる。そういう情報を吸い上げる設問があっても良いのでは。

【澤田委員】具体例があると良い。「ある」の回答のなかに選択肢を設けてはどうか。

【吉田委員】設問の「スポーツ教室」をとってしまえばよいのでは。

【澤田委員】問4からの流れで回答していくと問6は「スポーツ教室」についての設問と受け取られる。

【横井課長】問6を問4の前に出せば良いのでは。

問1の「好きですか。」という問い方は適当か。どれにも当てはまる人がいると思うが。

【清水局長】だからこそ、「好きですか。」という問いの方が答えやすいかもしれない。参加もし、ボランティアもしているが、「好き」なのはどれかという回答はできる。

【帰山副委員長】問1について、「運動」と「スポーツ」の違いは何か。

【吉田委員】色んな人によって捉え方が違う。運動とスポーツを並べておけば、個々で競技性の有無などで判断するのは。

【事務局】注釈をつけさせていただく。

【帰山副委員長】サークルについても、注釈をお願いしたい。

【澤田委員】選択肢の「まあ感じている」の「まあ」が曖昧ではないか。強弱が分からない。

【事務局】回答しやすいように見直す。

【小林委員】エゴグラム診断のように5段階にして、自分の意志がどちら側に寄っているかを分かりやすく選択できるようにする方が本心は見えやすい。

【山田委員長】設問の選択肢が特に終盤かけて多い。

【帰山副委員長】問14は、全てに丸を付けたいくらいであるが、設問の意図は。

【事務局】市の施策を進めるにあたり、こういった要望があるのか掴みたい。

(4) 計画策定スケジュールについて【資料 No.9】

⇒事務局から資料に基づき説明。質疑無し。

(5) その他

⇒特になし

6. 閉会あいさつ

帰山副委員長

私自身は、体育という言葉からなかなか離れられないが、スポーツはますます幅広くなってきている。新しいスポーツ推進計画の策定に今後とも皆様のご協力をお願いしたい。